

国立大学法人化に関するアンケート調査

—ある病院のケース—

山口大学経済学部教授 中 田 範 夫

Norio NAKADA

山口大学附属病院看護部長 花田 千鶴美

Chizumi HANADA

Summary

We did the questionnaire survey to the nurses working in a certain independent administrative agency hospital. In this questionnaire, how the nurse's consciousness changed at the time of three was investigated.

The nurses were separately divided into three groups at the age, and it was analyzed whether the difference was looked like between those groups.

第1節 はじめに

平成24年3月にある国立大学附属病院の看護師に対して法人化に関するアンケート調査を実施した。合計で117の有効回答を得ることができた。これらの回答を年代の若い順からAグループ（20代と30代）、Bグループ（40代）そしてCグループ（50代と60代）に分類した。

第2節 設問と回答

設問はA,B,Cの3種類に区分される。Aは国立大学法人化以前についての意見を聞いたものである。次に、Bは国立大学法人化後の第1期中期計画期間が経過し、第2期中期計画が計画された当時における意見を聞いたものである。最後に、Cは国立大学法人化経過後8年間が経過しようとしている現時点における意見を聞いたものである。

なお、このアンケートの属性から、該当看護師

は少なくとも平成16年4月時点で当該病院に勤務しており、そして平成24年3月調査時点まで継続して勤務している者のみを対象にしていることを記しておく。

A：国立大学法人化（平成16年4月1日）前の時点における貴方の意見についてお聞きします。

設問1 国立大学法人化する前に次の点に関して不安に思いましたか？

(1) 非公務員型の国立大学法人への移行に関して

1. 非常に不安
2. 少し不安
3. 不安はない

(2) 報酬に関して

1. 非常に不安
2. 少し不安
3. 不安はない

(3) 国立大学法人化への移行を貴方は肯定的に捉えていましたか

1. 肯定的であった
2. 肯定的でも否定的でもなかった
3. 否定的であった

(1)	Aグループ	Bグループ	Cグループ	全 体
1	6(15.4)	12(30.8)	4(12.5)	22(20.0)
2	26(66.7)	19(48.7)	21(65.6)	66(60.0)
3	7(17.9)	8(20.5)	7(21.9)	22(20.0)

なし	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

(2)	Aグループ	Bグループ	Cグループ	全 体
1	15(38.5)	16(41.0)	7(21.9)	38(34.5)
2	22(56.4)	19(48.7)	21(65.6)	62(56.4)
3	2(5.1)	4(10.3)	4(12.5)	10(9.1)
なし	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

(3)	Aグループ	Bグループ	Cグループ	全 体
1	0(0)	1(2.6)	2(6.2)	3(2.7)
2	34(87.2)	32(82.0)	26(81.3)	92(83.7)
3	4(10.2)	6(15.4)	4(12.5)	14(12.7)
なし	1(2.6)	0(0)	0(0)	1(0.9)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問2 国立大学法人化に際して、病院の中で制度改革についての議論が行われたかどうかについてお聞きします。その際貴方は議論に参加し、意見を述べる機会を与えられましたか？

1. 十分に機会を与えられた
2. 機会是与えられたが十分ではなかった
3. 全く機会を与えられなかった

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
2	7(17.9)	5(12.8)	11(34.4)	23(20.9)
3	32(82.1)	34(87.2)	20(62.5)	86(78.2)
なし	0(0)	0	1(3.1)	1(0.9)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問3 第1期中期目標の決定に対して、貴方は意見を述べる機会を与えられましたか？

1. 十分に機会を与えられた
2. 機会是与えられたが十分ではなかった
3. 全く機会を与えられなかった

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
2	6(15.4)	3(7.7)	8(25.0)	17(15.5)
3	33(84.6)	36(92.3)	22(68.8)	91(82.7)
なし	0(0)	0(0)	2(6.2)	2(1.8)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問4 第1期中期目標の内容を貴方はご存じでしたか？

1. 十分に知っていた

2. あまり知らなかった

3. 全く知らなかった

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	0(0)	0(0)	3(9.4)	3(2.7)
2	11(28.2)	15(38.5)	18(56.2)	44(40.0)
3	28(71.8)	24(61.5)	11(34.4)	63(57.3)
なし	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問5 第1期中期計画や年度計画の決定に対して、貴方は意見を述べる機会を与えられましたか？

1. 十分に機会を与えられた
2. 機会是与えられたが十分ではなかった
3. 全く機会を与えられなかった

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	0(0)	0(0)	1(3.1)	1(0.9)
2	5(12.8)	3(7.7)	6(18.8)	14(12.7)
3	34(87.2)	36(92.3)	23(71.9)	93(84.6)
なし	0(0)	0(0)	2(6.2)	2(1.8)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問6 貴方は第1期中期計画や年度計画を意識して、日々の仕事を行いましたか？

1. 十分に意識して仕事を行った
2. それほど意識しなかった
3. 全く意識しなかった

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	1(2.6)	1(2.6)	5(15.6)	7(6.4)
2	10(25.6)	16(41.0)	16(50.0)	42(38.2)
3	28(71.8)	21(53.8)	11(34.4)	60(54.5)
なし	0(0)	1(2.6)	0(0)	1(0.9)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問7 第1期中期計画や年度計画における具体的目標値は、適切なレベルだと思いませんか？

1. 十分に適切である
2. ある程度適切である
3. 適切でない
4. 適切であるかどうかわからない

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	0(0)	0(0)	1(3.1)	1(0.9)
2	5(12.8)	7(18.0)	12(37.5)	24(21.8)

3	1(2.6)	2(5.1)	1(3.1)	4(3.6)
4	33(84.6)	30(76.9)	18(56.3)	81(73.7)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問8 設問7において「4. 適切であるかどうか分からない」と回答された方は、その理由を記入ください。

理由を記入してもらっているが、その内容はほとんど同じである。すなわち、「目標値を提示され、それを実行するだけなので、よくわかりません」、「目標値を知らない」、「計画について知らないため」といったものである。AGでは23名、BGでは19名、そしてCDでは11名が上記のように回答されていた。

B：国立大学法人化後の第1期中期計画期間が経過し、第2期中期計画が計画された当時における貴方の意見をお聞きします。

設問9 第2期中期目標の決定に対して、貴方は意見を述べる機会を与えられましたか？

1. 十分に機会が与えられた
2. 機会を与えられたが十分ではなかった
3. 全く機会が与えられなかった

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	1(2.6)	0(0)	1(3.1)	2(1.8)
2	6(15.4)	5(12.8)	7(21.9)	18(16.4)
3	32(82.0)	34(87.2)	22(68.8)	88(80.0)
なし	0(0)	0(0)	2(6.2)	2(1.8)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問10 第2期中期計画や年度計画の決定に対して、貴方は意見を述べる機会を与えられましたか？

1. 十分に機会が与えられた
2. 機会を与えられたが十分ではなかった
3. 全く機会が与えられなかった

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	1(2.6)	0(0)	1(3.1)	2(1.8)

2	6(15.4)	5(12.8)	7(21.9)	18(16.4)
3	32(82.0)	34(87.2)	22(68.8)	88(80.0)
なし	0(0)	0(0)	2(6.2)	2(1.8)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

C：以下は国立大学法人化経過後8年間が経過しようとしている現時点における意見をお聞きします。

設問11 国立大学法人化後の現在、次の点に関して不安に思っていますか？

- (1) 非公務員型の国立大学法人への移行に関して
 1. 非常に不安
 2. 少し不安
 3. 不安はない
- (2) 報酬に関して
 1. 非常に不安
 2. 少し不安
 3. 不安はない
- (3) 国立大学法人化への移行を貴方は肯定的に捉えていますか
 1. 肯定的である
 2. 肯定的でも否定的でもない
 3. 否定的である

(1)	Aグループ	Bグループ	Cグループ	全 体
1	5(12.8)	9(23.1)	4(12.5)	18(16.4)
2	25(64.1)	24(61.5)	19(59.4)	68(61.8)
3	9(23.1)	6(15.4)	9(28.1)	24(21.8)
なし	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

(2)	Aグループ	Bグループ	Cグループ	全 体
1	14(35.9)	18(46.2)	12(37.5)	44(40.0)
2	22(56.4)	20(51.3)	15(46.9)	57(51.8)
3	3(7.7)	1(2.5)	5(15.6)	9(8.2)
なし	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

(3)	Aグループ	Bグループ	Cグループ	全 体
1	3(7.7)	4(10.3)	6(18.8)	13(11.8)
2	33(84.6)	32(82.0)	24(75.0)	89(80.9)
3	2(5.1)	3(7.7)	1(3.1)	6(5.5)

なし	1(2.6)	0(0)	1(3.1)	2(1.8)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問12 第2期中期目標の内容を貴方はご存じですか？

1. 十分に知っている
2. あまり知らない
3. 全く知らない

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	0(0)	0(0)	4(12.5)	4(3.6)
2	16(41.0)	22(56.4)	16(50.0)	54(49.1)
3	23(59.0)	17(43.6)	12(37.5)	52(47.3)
なし	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問13 第2期中期計画や年度計画を意識して、日々の仕事を行っていますか？

1. 十分に意識して仕事を行っている
2. それほど意識していない
3. 全く意識していない

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	0(0)	1(2.6)	4(12.5)	5(4.5)
2	15(38.5)	19(48.7)	15(46.9)	49(44.6)
3	24(61.5)	19(48.7)	13(40.6)	56(50.9)
なし	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問14 第2期中期計画や年度計画における具体的目標値は、適切なレベルだと思いますか？

1. 十分に適切である
2. ある程度適切である
3. 適切でない
4. 適切であるかどうか分からない

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	0(0)	0(0)	1(3.1)	1(0.9)
2	6(15.4)	10(25.6)	15(46.9)	31(28.2)
3	1(2.6)	1(2.6)	1(3.1)	3(2.7)
4	32(82.0)	27(69.2)	15(46.9)	74(67.3)
なし	0(0)	1(2.6)	0(0)	1(0.9)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問15 設問14において「4. 適切であるかどうか分からない」と回答された方は、その理由を

記入ください。

ここでも理由を記入してもらっているが、その内容はほとんど同じである。すなわち、「わからない」、「目標値を知らない」、「計画について内容を知らないため」といった回答である。これに関してAGでは21名、BGでは16名、そしてCGでは7名の回答があった。

設問16 平成23年度の年度計画における具体的目標値は、貴方が仕事をする上で何らかの影響を与えていると思いますか？

1. 与えていると思う
2. それほど意識しない
3. 全く意識しない

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	4(10.3)	5(12.8)	14(43.8)	23(20.9)
2	16(41.0)	17(43.6)	9(28.1)	42(38.2)
3	19(48.7)	16(41.0)	8(25.0)	43(39.1)
なし	0(0)	1(2.6)	1(3.1)	2(1.8)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問17 国立大学法人化後、貴方の仕事の「範囲内」で法人化以前と変化したことが「ある」と感じますか？

1. あると思う
2. いくらかあると思う
3. 変化を全く感じない

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	1(2.6)	8(20.5)	13(40.6)	22(20.0)
2	10(25.6)	20(51.3)	12(37.5)	42(38.2)
3	28(71.8)	11(28.2)	7(21.9)	46(41.8)
なし	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問18 設問17において「1. あると思う」あるいは「2. いくらかあると思う」と回答された方にお聞きします。それは何ですか？具体的に記入ください。

	AG	BG	CG	全体
コスト削減	3	7	4	14

給料が減った	3	3	1	7
仕事量の増加	3	2	1	6
稼働率	1	0	1	2
経営面を考えるようになった	0	1	3	4
その他	0	5	8	13

設問19 国立大学法人化後、貴方の仕事の「範囲外」(例えば、事務部や他部署の仕事のやり方や仕事に対する考え方)でそれ以前と変化したことが「ある」と感じますか？

1. あると思う
2. いくらかあると思う
3. 変化を全く感じない

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	1(2.6)	7(17.9)	10(31.2)	18(16.4)
2	8(20.5)	18(46.2)	7(21.9)	33(30.0)
3	28(71.8)	14(35.9)	10(31.2)	52(47.3)
なし	2(5.1)	0(0)	5(15.7)	7(6.3)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問20 設問19において「1. あると思う」あるいは「2. いくらかあると思う」と回答された方にお聞きします。それは何ですか？具体的に記入ください

この設問に対する回答は多様なので、各グループともそのまま記述する。

AGについて

- ・薬がジェネリックになる。製品が業者数社より良いものを選択することができる(医材など)。
- ・法人化と言っている割に事務の仕事が、お役所仕事のように感じます。
- ・コスト的なこと。
- ・外注。
- ・クラーク、助手の人数が増えた。

BGについて

- ・コスト面。
- ・コスト意識。
- ・仕事内容が厳しくなった。

- ・外注委託が増えた。
- ・外注が増えた。
- ・国のためではなく、病院のためにはたらくきもち。患者さんの意識も違う。国立だったら当たり前の方の考え方をすることができる。
- ・何となく。
- ・病院全体で利益を考え、物品管理等も行うようになった。
- ・派遣職員が増えた。外注委託。

CGについて

- ・経済面を意識するようになっている。
- ・時間外の仕事は評価されていない。
- ・接遇面、サービス、病院の設備。
- ・病院内チームで取り組む体制ができています。関係が密となっている。
- ・経営面、財務管理。
- ・病院の収益を常に意識するようになった。
- ・患者サービスに向けその各部署の取り組みが向上した。
- ・無理な合理的業務。
- ・仕事が丁寧になった。
- ・外注が多くなり、サービスに対する意識も上がってきているが、常勤職員の意識はどうでしょう？入札制度のためにサービスが一時的に混乱するのも困る。
- ・以前と比べ業者の選び方に変化がある。
- ・コストの入力など、看護師の業務以外のことも増えた。

設問21 国立大学法人化後、看護サービスの質は上がったと思いますか？

1. 上がったと思う
2. いくらか上がったと思う
3. 上がったと思わない

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
--	-------	-------	-------	----

1	1(26)	6(15.4)	8(25.0)	15(13.6)
2	7(17.9)	18(46.1)	19(59.4)	44(40.0)
3	31(79.5)	15(38.5)	4(12.5)	50(45.5)
なし	0(0)	0(0)	1(3.1)	1(0.9)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問22 設問21において「1」あるいは「2」を回答した方は、どの部分のサービスが上がったか具体的に記入してください。

この設問に対する回答は多様なので、各グループともそのまま記述する。

AGについて

- ・よくわからない。
- ・人員増員。
- ・看護サービスのみならず、いわゆる7対1看護以降は本当に良くなっています。

BGについて

- ・間接的な介助の時間が減り、直接関わる時間が増えた。
- ・看護師が7対1の配置になり、看護助手やクラークも増えた。
- ・自分達の看護の評価で患者の満足度も変化する。接遇や基本的な技術や計画・立案に沿った看護の提供。
- ・クラーク、医療事務の増員。
- ・言葉遣いなど以前より丁寧になった。
- ・手厚い看護。
- ・接遇。
- ・7対1になり、少しではあるが、ケアが以前より充実しているのではないかと思う。
- ・環境整備や看護ケアが充実してきた。
- ・環境・接遇。
- ・看護助手やクラークの増員により、患者へ直接関わる時間が増えた。
- ・ADL面の向上。
- ・接遇や安全管理に対する取り組み。

CGについて

- ・自分の時間を犠牲にしてまでもサービス残業をしている。日勤帯は1人が責任を持つ人数が減ったので、関われていると思う。
- ・患者サービスについてきめ細かくなった。
- ・対人関係、患者中心が定着。これは法人化と関係ないかも。認定看護師の増加。
- ・接遇。
- ・QOLに関連する項目が充実してきたと思う。
- ・患者さんの移送業務が、看護助手業務として充実している。
- ・手厚い看護が少しずつできている。医師からの役割分担が進んでいる。目標達成のため在院日数短縮が進む中でも安全に関するレベルが保たれている。
- ・アメニティーの改善への取り組み。駐車場、病棟案内表示など。
- ・看護ケア。
- ・入院短期の目標のため入院早期退院指導を行っている。
- ・法人化によるものではなく、時代の流れから看護サービスがいわゆるようになったため、何事も患者中心にされるようになった面。
- ・外来について。
- ・環境、ADLの援助、PTの声が反映されてきた。
- ・7対1看護、クラークの導入があった。
- ・職員の増員によるサービス料のアップ。
- ・看護ケア。
- ・入院環境、ADL支援。
- ・接遇、教育へのサポート（認定看護師等）。
- ・患者に対するサービス。
- ・患者サービス。
- ・サービス内容を具体的に明記し、実践する。
- ・必要とされている物があっても、以前はなかなか改善されず、時間がかかっていたが、今

は、敏速に対処されている部分が多いため、環境の改善が即行われている。

- ・退院支援について考え計画する様になった。

設問23 国立大学法人化移行後の経営管理についてお聞きします。法人化移行後の経営管理は「経済性の視点」(財務的視点で物事を判断すること)が強くなったと思いますか？

1. 強くそう思う
2. いくらかそう思う
3. 法人化前と変わらないと思う

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	3(7.7)	11(28.2)	17(53.1)	31(28.2)
2	15(38.5)	23(59.0)	12(37.5)	50(45.4)
3	21(53.8)	5(12.8)	3(9.4)	29(26.4)
なし	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問24 設問23で「1. 強くそう思う」あるいは「2. いくらかそう思う」と回答された方にお聞きします。そのように思うのは具体的にどのような場合ですか？具体的に記入ください。

この設問に対する回答は多様なので、各グループともそのまま記述する。

AGについて

- ・病院システムがEG-MAIN GX以降は本当に良くなっています。
- ・物品のコストを厳しくチェックするようになった。
- ・安い業者を入れようとしている。または、入れている。
- ・年度末になると、備品の購入ができなくなる。
- ・業績や利益についての発展がある。
- ・ものを受け取るのに制限がある。
- ・民営化に伴い、経営にはうるさくなくなったと感じる。
- ・稼働率のことで、ベッドコントロールが上手

く管理できていないために、看護師に業務負担のしわ寄せが来る。

- ・医療材料の選択など。

BGについて

- ・会議などを通じて、目標・達成などが詳しく報告されている。
- ・報酬の減額。
- ・加算がとれることに関して積極的に行っている。患者サービス向上、稼働率アップに向けた取り組み。
- ・病床稼働率を上げるようにと、空床があれば他科の患者の入院を受け入れることが多くなった。
- ・省エネについて以前よりも言われることが多い。
- ・在院日数、稼働率など意識が強くなった。
- ・薬や材料が変わった。物品の発注が難しくなった。
- ・入院期間が厳しい。包括化。
- ・物品管理や予算など厳しくなった。
- ・棚卸等、厳しく行うようになった。
- ・「安い」ところを探して、品質を見ていないように感じる。
- ・在院日数などをシビアにいわれるようになった。しかし、職員への啓蒙は不十分と感じる。
- ・棚卸。
- ・様々な用品の節約を強く求められる。
- ・コストの安い物品への切り替えが多い。
- ・棚卸。
- ・経営に意識を強化し、黒字を目指した。

CGについて

- ・財務の視点での目標管理を考える機会を多く与えられ、全員で考えるようになった。
- ・物の請求が厳しくなった。

- ・使用する器財などの値段が気になる。管理料などのチェックが厳しくなった。
- ・周囲の環境が整備されていないうちから指導管理料等を取ろうとしている等。
- ・稼働率の上昇や在院日数減少。
- ・7局報量, 会議等での議題等。
- ・毎月, 経営状況の報告が師長よりあるから。
- ・いつも言われるので。
- ・稼働率や経営の話が良くされる。コスト面も。
- ・意識改革, 特にドクター。
- ・物品管理, 稼働率の向上。
- ・物品管理。
- ・稼働率の維持・向上のため診療料を越えたベッドコントロールがされてきた。人員の効率的な配置に取り組んでいる。
- ・ベッドコントロールを, 常に目標稼働率以上を目指して行っている。
- ・無益な環境の建設が少なくなったと思う。
- ・目標に経済的な物が多く含まれるようになった。
- ・人物金に帯する知識や学習が増え, 管理にも取り入れられている。看護師としてお金が取れるようになり, 影響力もある。
- ・収入について厳しくなった。
- ・物品管理の面など, 以前に比べて厳しくなっている。
- ・物品の使用方法・量などに注意する場面を見かけることが多くなった。それ以前の「節約」等に帯する意識が薄かったと思う。
- ・安いものへとどんどん変わる。清浄業務のレベルは下げてほしくない。
- ・稼働率と平均在院日数の調整。

設問25 貴方の病院は、「現在」, 民間病院と同じレベルの経済性を重視した経営が行われている

と思いますか?

1. 行われていると思う
2. 十分ではないと思う
3. 行われていないと思う

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	6 (15.4)	13(33.3)	13(40.6)	32(29.1)
2	19(48.7)	23(59.0)	16(50.0)	58(52.7)
3	13(33.4)	3(7.7)	3(9.4)	19(17.3)
なし	1(2.5)	0(0)	0(0)	1(0.9)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問26 設問25において「2. 十分ではないと思う」あるいは「3. 行われていないと思う」と回答された方にお聞きします。貴方の病院は、「将来的に」, 民間病院と同じレベルの経済性を重視した経営が行われるようになると思いますか?

1. 行われるようになると思う
2. 全く同じようにはならないと思う
3. そのようになるとは思わない

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	5(15.6)	4(15.4)	1(5.3)	10(13.0)
2	21(65.6)	20(76.9)	17(89.4)	58(75.3)
3	6(18.8)	2(7.7)	1(5.3)	9(11.7)
合計	32(100)	26(100)	19(100)	77(100)

設問27 設問26において「2. 全く同じようにはならないと思う」あるいは「3. そのようになるとは思わない」と回答された方にお聞きします。その理由は何のようなものですか? 具体的に記入ください。

この設問に対する回答は多様なので, 各グループともそのまま記述する。

AGについて

- ・組織規模の違い。外部委託などしない限り風土として変わらないと思う。
- ・分からない(予測できない)。
- ・なんとなく。
- ・なんとなく。

- ・大学病院のため、入院費を払えない方を断るなどはできない。また、医療費を踏み倒されても徴収しない。
- ・医師に自覚がない。
- ・よくわからない。
- ・民間病院とは経営の規模も違う。
- ・救急搬送の受け入れが多いため。
- ・公費に準ずるといものが多いから。
- ・先進医療であり、無理ではないか。
- ・民間病院のレベルが、良いとは判断できない。経済性のみを重視すれば、どこかに無理が生じる。
- ・学生実習・教育の機能を有している点。
- ・経済性を重視し頑張っても、給与は下がる一方だから。
- ・物品など無駄遣いが多い。
- ・物の使い方に関してあまり民間の病院ほどうるさく言われないため。
- ・コスト面に対して職員の意識が低いと思うから。

B G について

- ・公益性の面で。
- ・国立大学法人としての使命があるから。
- ・「経営」事態に不慣れだと感じている。厚生労働省の介入もあり、意思決定の自由さや機動性に欠ける。横（科のしがらみなど）の連携ができていない。
- ・先進医療を行っており、器財・医材等も新しい物を使ったり、研究等も必要であり、民間病院と同じレベルでは治療は行えないと思う。
- ・規模の大きさ、管理する人、できる人がいない。早い勤務場所の移動でやり方が変わる。
- ・予算。
- ・患者サービスが大切。安全などを考えると。

- ・公益性も大事であるから。
- ・大学病院であり、他病院から多くの重症患者が送られてくるため、経済性を問わない治療を行わざるを得ないこともある。
- ・公益性も考慮しなければならないから。
- ・大学病院であり、公務員のようにまだ守られているという気持ちがあり、他HPとの医療・看護の質などで負けられない自信がある。
- ・競争意識がない。
- ・病院としての目的が異なるので。
- ・無理だから。
- ・組織が大きく、コスト意識が非常に低い。
- ・民間病院とは求められている物が違うため、それに応えるには無理がある。

C G について

- ・大学病院は教育・研究も重要な使命であり、民間と異なる。
- ・山大病院に患者が集中する傾向は変わらないと思うため、難しい。
- ・医療人育成、研究機関として機能を果たすためにはそれなりにかかる。経費等が削減できると思う。
- ・無駄が多い。
- ・山口県の中核病院であり、研究も重ねなければならない。経営重視にすると、経済的に十分でないことなど公共性が失われる。
- ・大学病院であり、教育・研究も重要な使命であるため、経済性のみを追求できない。
- ・大学病院のため、公共性が強いと思うから。また、大学病院だけが利益を上げて大学全体の利益となり「純利益」にならない。
- ・職員が多く、全員が同じように意識が持てない。
- ・病院の担っている役割があるから。
- ・大学病院、教育機関である。

- ・組織が大きい。教育機関があり、完全に法人化になるのは難しいと思います。
- ・教育機関であるため、民間病院と全く同じ経済性のみを追求するようになってはいけな
と思う。

設問28 公的病院は「公益性」と「経済性」を同時に達成しなければならないといわれています。貴方の勤務している病院は国立大学法人となったわけですが、その場合でもこれまでと同様なレベルで「公益性」と「経済性」を同時に達成できると考えますか？

1. 達成できると思う
2. これまでよりもいくらか「経済性」が重視されると思う
3. 「経済性」が大きく重視されると思う

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	平均
1	2(5.1)	4(10.3)	6(18.8)	12(10.9)
2	29(74.4)	25(64.1)	19(59.4)	73(66.4)
3	3(7.7)	7(17.9)	5(15.6)	15(13.6)
なし	5(12.8)	3(7.7)	2(6.2)	10(9.1)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

設問29 設問28に対する貴方の回答について、自分自身では納得していますか？

1. 十分に納得している
2. 仕方がないと思う
3. 納得していない

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	全体
1	2(5.1)	5(12.8)	9(28.1)	16(14.5)
2	26(66.7)	29(74.4)	19(59.3)	74(67.3)
3	9(23.1)	2(5.1)	2(6.3)	13(11.8)
なし	2(5.1)	3(7.7)	2(6.3)	7(6.4)
合計	39(100)	39(100)	32(100)	110(100)

第3節 若干の分析

設問1

- (1) AGとCGは同じ傾向を示している。これに対して、BGでは、「1」が相対的に高く、その分「2」が低い。ただし、3つのグループとも「1」と「2」の合計は同じくらいである。
- (2) AGとBGは同じ傾向である。すなわち、両グループでは「2」と「1」がこの順番で高い。これに対してCGにおいては、3つのグループの中で「2」が飛び抜けて高く、逆に「1」が最も低い。
- (3) 3つのグループともに同じ傾向である。すなわちどのグループにおいても「2」が最も高く、次に高いのは「3」であり、これに対して、どのグループにおいても「1」は僅かである。

設問2

3グループとも同じ傾向である。すなわち、「3」が最も高く、次に「2」が高い。「1」の回答はいずれのグループにおいても全く見られなかった。ただし、このうちでもCGにおいては他のグループよりも「2」が著しく高い。これは、CGは50歳代・60歳代であり、病院においては看護師の幹部であり、それゆえに改革に関する議論の中で他の年代と比較すると、意見を述べる機会が多かったのではないかと推測する。

設問3

3つのグループともに同じ傾向である。すなわち、高い順から「3」→「2」→「1」である。「1」は3グループともにゼロである。その中でも、AGとBGにおいては「3」が圧倒的に高い。これに対して、CGでは「2」が他のグループと比較して高い。やはり、幹部看護師には他の年代

に比較して十分ではなかったが、意見を述べる機会が与えられたことが推測される。

設問4

AGとBGは同じ傾向である。第1期中期目標の内容を「3」(全く知らなかった)という回答は、高い順にA→B→Cとなっており、これを「1」と「2」に対する解答と合わせて推測すると、幹部看護師は十分ではないがその内容を知る機会があったことがわかる。

設問5

3つのグループともに同じ傾向を示している。すなわち、回答の高い順から「3」→「2」→「1」となっている。ただし、CGにおいては他の2つのグループと比較して「3」が低く、その分だけ「2」が高くなっている。

設問6

AGとBGは同じ傾向を示している。すなわち、「3」→「2」→「1」の順番で回答率が高い。これに対して、CGでは「3」と「2」の順序が逆転している。すなわち、幹部看護師のグループでは「3」(全く意識しなかった)という回答が減少し、逆に「2」(それほど意識しなかった)や「1」(十分に意識して仕事を行った)という回答が高くなっている。

設問7

3つのグループとも同じ傾向を示している。その中ではCGにおいて「2」(ある程度適切である)という回答が他のグループに比較して高くなっている。逆に、CGでは、「4」(適切であるかどうかわからない)という回答が低くなっている。

設問9

3つのグループともに同じ傾向を示している。ただし、CGにおいては他の2つのグループに比較して「3」(全く機会が与えられなかった)が

減少し、その分「2」(機会は与えられたが十分ではなかった)が増大している。

設問10

3つのグループともに同じ傾向を示している。ただし、CGにおいては他の2つのグループに比較して「3」(全く機会が与えられなかった)が減少し、その分「2」(機会は与えられたが十分ではなかった)が増大している。

設問11

- (1) AGとCGは同じ傾向を示している。すなわち、「2」→「3」→「1」の順番で回答が高い。これに対して、BGでは「3」と「1」の順序が逆転している。また、「1」と「2」の合計は他の2つのグループに比較してBGにおいてより高い数値を示している。
- (2) 3つのグループともに同じ傾向を示している。しかし、「3」(不安はない)の数値はCGにおいて最も高い状況である。
- (3) 3つのグループが同じ傾向を示している。すなわち、「2」→「1」→「3」の順に高い数値を示している。また、「1」(肯定的である)についてはCGにおいて最も高い状況である。

設問12

BGとCGは同じ傾向を示している。すなわち、「2」→「3」→「1」の順番で数値が高い。これに対して、AGでは「2」と「3」の順序が逆転している。CGにおいては「3」(全く知らない)が3グループの中で最も低く、逆に「1」(十分に知っている)という回答も若干だけが見られる。

設問13

BGとCGは傾向が類似している。すなわち、「2」と「3」の回答が同じくらいである。これ

に対して、AGでは「3」の回答が「2」の2倍弱であり、回答率に大きな差がある。すなわち、若年世代では中期計画や年度計画を（全く意識していない）「3」が非常に高い（61.5%）のに対して、他の2つのグループではその比率が減少し、その分「2」（それほど意識していない）や「1」（十分に意識して仕事を行っている）が増大している。特に、CGでは「1」は12.5%になっている。

設問14

順位から言えば3グループはほぼ同じ傾向を示している。すなわち、「4」→「2」→「3」→「1」の順番に数値が高い。ただし、「4」の数値はAG 82.0%、BG 69.2%そしてCG 46.9%と大きく減少している。逆に「2」の数値がAG 15.4%、BG 25.6%そしてCG 46.9%と大きく増大している。

設問16

3つのグループの傾向は全く異なっている。すなわち、AGでは「3」→「2」→「1」の順番に数値が高い。BGでは「2」→「3」→「1」の順番に高い。そして、CGでは「1」→「2」→「3」の順番に高い。これは、AGとBGにおいては年度計画における目標値が仕事をする上で「2」（それほど意識しない）や「3」（全く意識しない）が高いのに対して、逆にCGでは「1」（与えていると思う）という回答が最も高いことを反映している。すなわち、年齢が高くなるほど、年度計画における目標値を意識して仕事を行っていることがわかる。これに対して、20・30代や40代の看護師は年度計画における目標値をそれほど強く意識することなく仕事をしているということである。

設問17

この設問に対しても3つのグループは全く異なる傾向を示している。仕事に関して法人化前後で

変化を感じているかどうかを質問しているが、AGとCGでは対照的な回答である。すなわち、AGでは「3」（変化を全く感じない）が71.8%で最も高く、CGでは21.9%と低い。逆にCGでは「1」（あると思う）が40.6%と最も高く、AGでは2.6%と低い。BGはAGとCGの中間的な傾向を示している。

設問19

この設問に対する回答も3つのグループで異なった傾向を示している。この設問は看護師としての仕事の範囲外で法人化前後で仕事に変化していることを感じているかどうかを質問している。AGでは「3」（変化を全く感じない）が最も高く（71.8%）、次に「2」（いくらかあると思う）が高く（20.5%）、最後に「1」（あると思う）（2.6%）という結果であった。BGにおいてはAGと比較して「3」が減少しているが（35.9%）、その減少分が「2」（46.2%）と「1」（17.9%）を高くしている。さらに、CGにおいてはBGと比較して「3」（31.2%）と「2」（21.9%）が減少し、その減少分が「1」（31.2%）を高くしている。要するに、年代層が高いほど他部署の仕事が変化していると感じる割合が高くなっている。

設問21

この設問に対するアンケート結果も3つのグループで異なった傾向を示している。すなわち、「3」（上がったと思わない）の回答がAG→BG→CGの順番に高いのに対して、逆に「1」（上がったと思う）の回答は「1」AG→BG→CGの順番に低い。若年齢看護師Gは法人化後も看護師サービスの質が上がったとは思っていないが、これに対して、幹部看護師Gはその質が上がったと思っている比率が高いということである。

設問23

この設問に対しても3つのグループの傾向は異

なっている。すなわち、各グループで最も高い数値は、AGでは「3」（法人化前と変わらないと思う）、BGでは「2」（いづらかさそう思う）、そしてCGでは「1」（強くそう思う）である。すなわち、若年齢看護師Gは経済性の視点をあまり意識していないが、年代が上がるにつれて経済性の視点をより強く意識していることがわかる。

設問25

この設問に対しては、AGの傾向とBG・CGの傾向とは異なっている。すなわち、3つのグループにおいて「2」（十分ではないと思う）が最も数値が高いということは共通しているが、しかし、AGにおいては「3」が33.4%であるのに対して、BGとCGではそれぞれ7.7%と9.4%となっている。その減少分が「1」や「2」の回答を増加させている。すなわち、民間レベルと同じだけの経済性を重視した経営が行われていると考えているのは50・60代グループにおいて最も多い状況である。

設問26

「1」についてはAGとBGが比較的高い数値であるのに対して、CGでは5.3%と低い数値を示している。しかし、AGにおいては、「3」の数値も同様に高い。これに対して、BGとCGにおいては「3」の数値はAGに比較して低い。3グループ全体において「2」が最も高い数値を示している。すなわち、年代が高いほど「2」（全く同じようには成らないと思う）の回答が多く、それに対して年代が低いほど「1」（行われるようになると思う）の回答が高い。

設問28

この設問の回答を「1」と「2」・「3」とに区分すると、「1」（達成できると思う）という回答はAG→BG→CGの順番で少しずつ比率が高くなっていく。

設問29

この設問に対してはAGの回答とBG・CGの回答では傾向が異なっている。すなわち、AGでは高い数値を示しているのは「2」→「3」→「1」の順番である。これに対して、BGとCGでは「2」→「1」→「3」の順番で高い数値を示している。AGにおける「3」（23.1%）、BGにおける「2」（74.4%）そしてCGにおける「1」（28.1%）が目立った数字を示している。すなわち、AGでは設問28に対する自身の回答に対して「納得していない」比率が他の2つのグループに比較して高く、BGにおいては「仕方がないと思う」という比率が高く、そしてCGにおいては「十分に納得している」という数値が高い。

第4節 おわりに

今回はある国立独立行政法人病院の看護師に対してアンケート調査を行った。看護師の意識が、法人化前の時期、法人化後第1中期計画経過時期、および第2期中期計画経過中の現在という3つの時点においてどのように変化しているかを調査したものである。その調査を年代別に3つのグループに区別し、それらの3つのグループ間に相違が見られるかどうかを分析したものである。

ただし、法人化前の時期、および法人化後第1中期計画経過時期における意識調査は、その時点で行ったものではなく、現時点においてその当時を振り返ってもらって実施したものである。その意味で、本当にその当時の意識を反映しているかどうかは疑念の生じるところである。このような疑念を払拭するためには、法人化導入直後の病院を探し出して調査を実施するほかない。

我が国では年齢と役職はおおよそ比例している。しかし、同一の調査を役職の違いという観点

から分析することも意味があるかもしれない。幸いにも、本調査においては役職についても記述してもらっているのです、そのような分析も可能である。

※本論文の内容及び記述についてはすべて中田に責任がある。またこの論文は、平成23年度科学研究費補助金「基盤研究(C)」の支援によって作成されたものである。